

日本セーフティプロモーション学会 第13回学術大会報告

徳 珍 温 子

大阪信愛学院短期大学

Report of 13th Conference of the Japanese Society for Safety Promotion

Atsuko TOKUCHIN

Osaka-Shin-Ai College

2019年（令和元年）12月14日（土）・15日（日）に、大阪信愛学院短期大学鶴見キャンパスにて日本セーフティプロモーション学会第13回学術大会を開催しました。天候にも恵まれ、師走ではありますが厳しい寒さも無く大会を迎えることができました。

大会テーマは「安全・安楽・安心な暮らしを科学する」でした。安全・安心については様々な場面で耳にすることも多いのですが、看護学では「安楽＝身体からもたらされる心地よさ、快適」も技術を提供する時に重要な要素であることから、本テーマとしました。また、専門領域という枠を越えての協働による広がりをとの思いで本大会を進めてまいりました。



<大阪信愛学院短期大学鶴見キャンパス>

大会1日目には、教育講演として大阪教育大学メンタルサポートセンター・日本SPS協議会のご協力で「セーフティプロモーションスクール（SPS）推進員養成セミナー」を公開講座として開催しました。

「セーフティプロモーションスクール」とは、教職員、児童・生徒、PTA、地域が参加する共感と協働に基づく安全教育・安全管理・安全連携の体系的な学校安全推進のための取り組みとして、大阪教育大学に新たに創設された制度の名称で、大きな悲しみをもたらした事件や事故・自然災害から得た貴重な教訓を未来へと活かすための実践です。

文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課 安全教育推進室室長補佐打田剛様よりご来賓挨拶を頂き、本学会副理事長の藤田大輔先生（大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター長・教授 日本セーフティプロモーションスクール協議会理事長）より「セーフティプロモーションスクールの考え方・進め方」の講習がありました。



<講習 セーフティプロモーションスクールの考え方・進め方>

引き続き、「セーフティプロモーションスクールにおける活動成果の共有」のためのワークショップとして、石巻市立鮎川小学校（宮城県）・台東区立金竜小学校（東京都）・宿毛市立山奈小学校（高知県）・大阪教育大学附属池田中学校（大阪府）の実践報告から、参加者の学びを深める場となりました。

子どもたちが持っている安全を進めていく力を教職員や保護者、関連する大人が認めることで、子どもたちの安全を推し進めていく力が更に伸びていくのだと感じさせられる実践報告であったと思います。



＜ワークショップ1
石巻市立鮎川小学校（宮城県）実践報告＞



＜ワークショップ2-1
台東区立金竜小学校（東京都）実践報告＞



＜ワークショップ2-2
台東区立金竜小学校（東京都）実践報告＞



＜ワークショップ3
宿毛市立山奈小学校（高知県）実践報告＞



＜ワークショップ4
大阪教育大学附属池田中学校（大阪府）実践報告＞

この公開講座には15名のセーフティプロモーションスクール（SPS）推進員養成セミナー参加者、9名の中華人民共和国からの参加者、本学会会員の皆様、一般参加と70名を超えるご参加を頂きました。

大会2日目には、一般講演と特別講演を午前と午後で開催することができました。

特別講演1として堺発祥の製茶本舗代表取締役である谷本順一様に「お茶の来た道とお茶の事」をご講演いただきました。

ご講演に先立ち「リラックスしていただいて聞きたい」と谷本先生からのお言葉をいただき、急須で入れたおいしいお茶が会場であふれまわれば、温かな雰囲気の中でご講演が始まりました。



<呈茶>



<柏岡翔太様のご講演の様子>



<谷本順一先生のご講演の様子>

喫茶は心地よさを提供する暮らしの中で重要な文化です。日ごろとは全く異なる視点で堺の喫茶文化に触れることができました。

大切な人に心を込めてお茶を入れること、お茶を通じてコミュニケーションを深めること、またお茶を通して地域の小学校等において「茶育」実践活動のご紹介を頂き、専門領域という垣根を越える安全・安楽・安心のつながりを感じることができたご講演でした。谷本先生の「お茶の葉で淹れる急須のお茶は、人を癒す成分を抽出し、コミュニケーションを深めることに大きな貢献をしているという」言葉を実感し、「今日は家に帰ったら大切な誰かに心を込めてお茶を淹れたい」と思われた方も多いのではないかと思います。

また、特別講演2では、大阪脊髄損傷者連絡会から柏岡 翔太様より「体験からみえる安全・安心な暮らしについて」ご講演をいただきました。

16歳で頸髄損傷を受傷し、身体的のみならず精神的にも「生きていても意味がない。死にたい。でも自分で死ぬことができない」と限界を感じる日々から、きっかけを得て高校復学という目標を見出し、高校復学と大学進学、卒業、そして現在の生活についてという体験をお話いただきました。

柏岡様の講演に引き続き、大阪頸髄損傷者連絡会事務局長の島本義信様より「当事者におけるセルフヘルプについて」同じ体験をした人たちが出会い、悩みや苦しみ、また自分たちがそれにどのようにして対処してきたかを伝えあい、同じ体験をした自分たち自身でサポートしていく活動としてのセルフヘルプ活動を基盤とした活動について、ご講演いただきました。

かつては長期入院の間に入院中の患者同士が体験を相互に語り、ピアサポート・ピアカウンセリングしていた状況が、社会の状況の変化に伴い受傷後の平均在院日数の短縮により困難となっていることを踏まえての頸髄損傷者連絡会の活動の意義と、三次予防に向けて協働へのアプローチを考える機会となりました。

特別講演2における貴重な体験を聴く機会が、多くの人の知へと結びつく共有の財産になったのではないかと思います。



<島本義信様のご講演の様子>

一般口演は、午前6題は地域・学校のセーフティプロモーションに関連する演題で、午後は医療・看護のセーフティプロモーションに関連する5題の発表がありました。

先生方が、少しの緊張と楽しそうにご発表される姿

と、活発な質疑応答に多くの示唆を得た時間となりました。

大阪で開催しました第13回学術大会にご参加いただ

き、ありがとうございました。

次回の第14回学術大会は兵庫県でお会いできることをお祈り申し上げます。



<一般口演の様子>



<大阪城を背景に懇親会場前にて記念撮影>